

てみました。この真菌症は、抗生素質の使用による菌交代症、ステロイド剤による抵抗力の低下、臓器移植などに使われる免疫抑制剤の普及、重症疾患における延命手段としての進歩といふように医学の進歩と一緒にして増加の一途を辿っています。その上、真菌の生物学的特性から、抗細菌剤と比べて抗真菌剤は難しく、かつ重篤な副作用を伴い易いため、有効な治療法も少なく制約が多いのが実情です。

ここでは皮膚真菌症の診断上の問題点と、光線療法の使い方の要点をとりあげてみました。

この真菌症は、抗生素質の使用による菌交代症、ステロイド剤による抵抗力の低下、臓器移植などに使われる免疫抑制剤の普及、重症疾患における延命手段としての進歩といふように医学の進歩と一緒にして増加の一途を辿っています。その上、真菌の生物学的特性から、抗細菌剤と比べて抗真菌剤は難しく、かつ重篤な副作用を伴い易いため、有効な治療法も少なく制約が多いのが実情です。

ここでは皮膚真菌症の診断上の問題点と、光線療法の使い方の要点をとりあげてみました。

因か否かの判断に困るほど難しい症例もあります。

ステロイド軟膏により悪化

現在、皮膚病の治療に最も用されている軟膏はステロイド軟膏です。でも、長期に連用すれば、前述した如く低抵抗力を低下させ、二次的に細菌や真菌の感染を誘発します。勿論、皮膚真菌症では発疹を悪化させます。

皮膚病が悪化する原因は、皮膚カソジダ症を併発しやすいのです。皮膚カソジダ症を見ただけでは、専門的な検査を要しますが、もしも皮膚カソジダ症を見落としてしまったが、皮膚から菌は検出されず、今では非真菌性疾患とされ、病名も顔面单纯性粗糠疹といいかめ

“カビ”に起因する皮膚病

医学博士
サナモア中央診療所
サナモア光線協会

宇都宮 光明

皮膚真菌症の特異性は、誰れもが自分の状態を自分で確かめることができるのでしょうか。そんなことから、日常経験する皮膚病には俗稱があり、この方が通ります。

皮膚真菌症にも俗稱がありますので、話のタネに書いておきます。

皮膚真菌症の中でも白癬菌に次いで多い皮膚カソジダ症の場合には、発疹の性状が湿疹、皮膚炎、汗疹（あせも）などと紛らわしいため、逆に真菌感染を見落すこともあります。

このように皮膚科専門医にとっても、視診だけでカビが原因で、逆に真菌感染を見落すこともあります。

皮膚真菌症の中でも白癬菌に次いで多い皮膚カソジダ症の場合には、発疹の性状が湿疹、皮膚炎、汗疹（あせも）などと紛らわしいため、逆に真菌感染を見落すこともあります。

健康と光線

発行所

〒153 東京都目黒区目黒
4-6-18
サナモア中央診療所内
サナモア光線協会
年4回発行
会費 年500円
電話 東京(03)
793-5281
712-5322

ので絶対に使つてはいけません。しかし、時に誤って使われることがあります。

皮膚病の光線療法は、“じら”でも、“ふけ症”や“脱毛症”でも、“皮膚カソジダ症”でも、“皮膚カソジダ症”でも、同じ治療法を用いる関係から、

例え

ば

カビによる“しらく”

毛があると、ふけが多くなっ

たり毛が抜けたりします。その

ため、ふけ症とか脱毛症と診断

してステロイド軟膏を使うと、

カビは繁殖して深部へ入り込み、

症と診断して抗生素剤を投与す

れば一層悪くなってしまいます。

因に、ふけ症の病名は、頭部單純性粒瘡疹と言いますが、これは

禿瘡と言いますが、これを肥厚

症と診断して抗生素剤を投与す

れば一層悪くなってしまいます。

因に、ふけ症の病名は、頭部單

純性粒瘡疹と言いますが、これは

禿瘡と言いますが、これを肥厚

症と診断して抗生素剤を投与す

れば一層悪くなってしまいます。

因に、ふけ症の病

（一）九二〇年代になると、ビタミンDの構造決定と合成法に関する研究が活発に行なわれた。中でもドイツのウインダウスとイギリスのレスキーによる陣争いは熾烈をきわめたと伝えられているが、最終的にビタミン

(ウ) インダウスが完成したビタミンDの合成法はウインダウス法と呼ばれ今まで使われているが、以下に要点のみ簡略に記す。

まずビタミンD₃の合成は、コレステロールから7-デヒドロコレステロールを作り、次に紫外線を照射してそのB環を光化學的に開裂させてプレビタミンD₃を作り、最後に熱異性化によって水素転位を起こさせるのであり、またビタミンD₂も植物スベリオールのエルゴステロールから、ほぼ同様にして合成するのである。ここで注意すべき点は、ウイ

べたが、改めて問題点を指摘する。生物学的に活性のあるステロイド構造を持つことである。生物は総て体内で生成され、ホルモンとしての性質を持つのである。これに反し、他ビタミンはどれ一つとしてステロイド構造を持たない。その第二は紫外線の働きによって皮膚で合成されることである。勿論、他ビタミンは体内で合成されることはない。その第三は合成されたビタミンDは血行を介して特定の

（參）考迄に、一九二七年にアメリカ医学会の小児科部門が出した報告から引用しよう。「クルンDは典型的なホルモンとしての性質を具備しているのであるから、第一義的に大切なことは体内の生成機構を十分に働くかしないことでなければならない。それには光線浴しかないのである。人々は太陽の恵みのお陰で健康に生きられるという自然の摂理をあくまでも重んじなければならない。

病であることを思い起こして下さい。
あなたの頭上にある太陽こそ、曾
って骨をおかす不治の病と恐
れられたクル病を治す鍵なので
す。この太陽の代りをするのが
サンモアです。光線浴を忘れる
なら、過剰症の心配から十分量
のビタミンDを摂ることもでき
ず、ビタミンD以外の多くの光
線の恩恵をないがしろにしてい
るのです。

(ク) ル病の病因について、20世紀初頭に繰りひろげられた論争を振り返つてきたりが、つまるところ光線（紫外線）とタラ肝油（ビタミンD）という全く異質なものでクル病が治る事實を説明できなかつたため、互に自己に固執せざるを得なかつたのだと考へることもできよう。しかし、既に本稿で述べたごとく、ヘスやステイーンボックによつて食品に紫外線を照射すると、食品が抗クル病作用を獲得する事が明らかにされ、クル病の予防や治療上第一義的に重要なのが光線であつて、食品ではないことが闡明され、学理的には決着がついたにもかかわらず、現在でも栄養欠乏症と考えてゐる人は多い。

ビタミンDの分子構造を解明し、有機化学的合成法を完成して、ノーベル化学賞を受賞（一九二八年）。したのは、ドヴィツ、ゲッチャンゲン大学のウインダウス（写真）である。その結果、ビタミンDは極めて安価に入手できるようになったため、歐米ではクル病や骨軟化症を予防する目的で牛乳にビタミンDを添加することを義務づけたのである。即ち原因がビタミンDの欠乏なら、経口的にビタミンDを与えれば光線浴の代りになると考えたのであるが、これが世人にビタミンD欠乏症は栄養の欠乏で起るとの考えに決定的に働いた。

（と） ころで、ここまでに蓄積された研究成果を注意深く分析すれば、この段階でビタミンDが他ビタミンと根本的に異なる性状を持つことに気付いた筈である。この点については以前にも述べたが、ビタミンDの合成過程で使うことである。ここでも紫外線なしにはビタミンDの合成ができないことが示されてゐる。

標的器官(腸・骨)に運ばれて作用機転はホルモンそのものである。事実、現代のビタミンDの研究者は、ビタミンDを一種のステロイドホルモンと見做していいのである。

(ウ) インダウスがビタミンDの合成に成功したことにより、歐米ではビタミンD牛乳が発売され、クル病や骨軟化症の予防に多大な貢献をした事実は否定できないが、前述の如くビタミンDを用することである。この作用機

病を予防するタラ肝油は、少な
くとも太陽のない寒くて暗い一
年の半分の間は、太陽の経済的
かつ実際的な優れた代用品であ
るが、他のビタミン欠乏症、例
えば夜盲症（ビタミンA）や脚
氣（ビタミンB）や壊血病（ビ
タミンC）が母乳栄養児ではま
ずないものに対し、クル病だけは
母乳でも防げないのである。
これは太陽光線が小児の発育
にとって必須の働きをしてい
ることを証明している。実際に
も、クル病は特に黒人において
冬が終る頃に最も重症になりか
つ最も屢々経験するのであるが、
このらの觀察からクル病の発症
にビタミンD：所謂ビタミンD
と呼ばれているタラ肝油：が重
大な役割を演じているのではな
くて、日照が影響しているのでは
ないかにタラ肝油（ビタミンD）

應用光線療法学 (18)

□ ビタミンDの作用 □

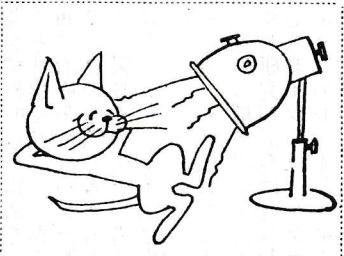
卷之二 15



A. Windaus 教授

医学博士 宇都宮光明

病を予防するタラ肝油は、少な
くとも太陽のない寒くて暗い一
年の半分の間は、太陽の経済的
かつ実際的な優れた代用品であ
るが、他のビタミン欠乏症、例
えば夜盲症（ビタミンA）や脚
氣（ビタミンB）や壊血病（ビ
タミンC）が母乳栄養児ではま
ずないもので防げないのである。
母乳では太陽光線が小児の発育
にとって必須の働きをしてい
ることを証明している。實際にい
ても、クル病は特に黒人において
冬が終る頃に最も重症になりか
つ最も屢々経験するのであるが、
このらの觀察からクル病の発症
にビタミンD：所謂ビタミンD
と呼ばれているタラ肝油：が重
大な役割を演じているのではないか
く、日照が影響しているのであ
り、いかにタラ肝油（ビタミ
ンD）がクル病を治すとしても
クル病はタラ肝油（ビタミンD）
欠乏症ではない。」



—治驗例報告—

るため、せめて週に2回と思いながら、今の処は週1回の治療を行なっている。3月から12回の治療をしたが、原病に対しても著変はないが、朝起きる時体が軽く感じるようになり、今後が楽しみな症例である。

背、小脳に各5分、足裏30分照射した処、顔にうっすらと赤みが出て、体も段々と温くなつて来た。
(翌日にはすっかりよくなり元気遊んでいると母親が礼に来られました。)

四年ほど前から光線療法もすすめられたが、光線位で病気が治るはずはないと思い聞き流していたが、あまりの苦しさに光線療法をやる気になつて来所した。

「しました」とにこにこ顔で言い、
器具の購入を約束して帰られた。

☆筋ジストロフィー

症例
24才 男性
左の大腿部

左の大脳部の角膜がおち、歩くのが少し不自由である。これまでも色々な治療を受けたが何をしても効果はなかつた。

きてからコンコンと寝ているので体に手をやると死人の様に冷たくなっていたため驚いて当左へかつきこんで来た。

療法経過 A B カーボンを組合せて、腹部、膝、足首、腰、

☆多発性筋炎の疑

照射後健康茶を大目に飲みほしてから、「今までではいつも背中に重い荷物を背負った感じだったのが、今日一回の治療で重荷がすっかりとれて、背中が軽くさっぱり

では遊走腎と診断され、薬を投与されたが、痛みもとれず、下腹部がひやひやし、右脇腹は重苦しく痛いので、もしや悪化したのではと心配になり友人に愚痴を言つたら、当院を紹介され、連れてこられたという次第。

愛用者だより

☆多発性筋炎の疑

照射後健康茶を大目に飲みほしてから、
今までではいつも背中に重い荷物を背負った感じだったのが、今日一回の治療で重荷がすっかりとれて、背中が軽くさっぱりました。

では遊走腎と診断され、薬を投与されたが、痛みもとれず、下腹部がひやひやし、右脇腹は重苦しく痛いので、もしや悪化したのではと心配になり友人に愚痴を言つたら、当院を紹介され、連れてこられたという次第。

ます。

症例 37才 男性
症状 数年前から全身的に筋肉痛や関節痛や骨格の痛みがあり、あらゆる治療を試みたが未ださっぱりしない。

が根気よくサナモアを使うようすすめた結果、三ヶ月で完治、又水虫も同時に照射したこところ大変具合よく、再発の様子もありません。

今後も、末永く愛用してまいりたいと思っています。

照射後健康茶を大目に飲みほしてから、

「今までにはいつも背中に重い荷物を背負った感じだったのが、今日一回の治療で重荷がすっかりとれて、背中が軽くさっぱりました。

足や手の指先に傷が出来る事一年間は治りませんでしたが、光線を照射すると下から肉がもり上ってきて、きれいな皮ふが出きます。

では遊走髄と診断され、薬を投与されたが、痛みもとれず、下腹部がひやひやし、右脇腹は重苦しく痛いので、もしや悪化したのではと心配になり友人に愚痴を言つたら、当院を紹介され、連れてこられたという次第。

療法経過 Aカーボンで肛門部10分、腰15分、下腹部10分、膝前後左右各5分、左右の甲状腺部（頸部）各5分、側腹部左右各10分照射した。この一回の治療で、初めの痛みがうすれたことに驚いておられた。

その後もほど同様の治療を続け、8日間で症状は完全になくなつた。大変に喜ばれ、次に食の細い弱い子供さんの治療をた

原書

照射後健康茶を大目に飲みほしてから、

「今まではいつも背中に重い荷物を背負った感じだったのが、今日一回の治療で重荷がすっかりとれて、背中が軽くさっぱりました。

足や手の指先に傷が出来ると一年間は治りませんでしたが、光線を照射すると下から肉がもり上ってきて、きれい

では遊走筋と診断され、薬を投与されたが、痛みもとれず、下腹部がひやひやし、右脇腹は重苦しく痛いので、もしや悪化したのではと心配になり友人に愚痴を言つたら当院を紹介され、連れてこられたという次第。

名古屋市

肋炎の疑問

男性
から全身的に筋骨格の痛みがあり、療を試みたが未い。

青木久子 病

水く愛用してまつています。

せん。

今日一回の治療で重荷がすっかりとれて、背中が軽くさっぱりしてから、

「今まではいつも背中に重い荷物を背負った感じだったのが、今日一回の治療で重荷がすっかりとれて、背中が軽くさっぱりして頂くようになりましてからは調子がよく、通院は止めました。

足や手の指先に傷が出来ると一年間は治りませんでしたが、光線を照射すると下から肉がもり上ってきて、きれいな皮ふが出きます。

では遊走髄と診断され、薬を投与されたが、痛みもそれず、下腹部がひやひやし、右脇腹は重苦しく痛いので、もしや悪化したのではと心配になり友人に愚痴を言つたら、当院を紹介され、連れてこられたという次第。

療法経過 Aカーボンで肛門部10分、腰15分、下腹部10分、膝前後左右各5分、左右の甲状腺部（頸部）各5分、側腹部左右各10分照射した。この一回の治療で、初めの痛みがうすれたことに驚いておられた。

その後もほど同様の治療を続け、8日間で症状は完全になくなつた。大変に喜ばれ、次に食の細い弱い子供さんの治療をた

療法経過 A B カーボンで、腹部、両大腿部の前後、足首、足裏、ふくらはぎ、腰、背、小脳に各 5 分照射。本例は遠隔地に居住し、車で一時間以上かゝ

では遊走腎と診断され、薬を投与されたが、痛みもそれず、下腹部がひやひやし、右脇腹は重苦しく痛いので、もしや悪化したのではと心配になり友人に愚痴を言つたら、当院を紹介され、連れてこられたという次第。

療法経過 Aカーボンで肛門部10分、腰15分、下腹部10分、膝前後左右各5分、左右の甲状腺部（頸部）各5分、側腹部左右各10分照射した。この一回の治療で、初めの痛みがうすれたことに驚いておられた。

その後もほど同様の治療を続け、8日間で症状は完全になくなつた。大変に喜ばれ、次に食の細い弱い子供さんの治療をたのんで帰られた。

For more information about the study, please contact Dr. Michael J. Hwang at (319) 356-4550 or via email at mhwang@uiowa.edu.

肪、低蛋白食で病状が改善することがあります。反面、ストレス、感染、薬剤などで悪化することからも発病要因は錯綜しています。

この病気は以前から欧米人に多発しており、アメリカでは人口の2%をおかす厄介な皮膚病となっています。ところが、近年わが国においても、患者数の著しい増加が指適されています。この増加傾向の一因に、日本人の食習慣の欧米化と、それに伴う脂肪摂取量の増加が関与しているかも知れません。勿論、断定することはできませんが、今

(I) ステロイド軟膏療法

近年わが国でも増加尋常性乾癬の原因はよく分つていませんが、生来の体質に加えて、物質代謝、中でも脂肪の代謝障害が誘因となる可能性が指摘されています。因に、本症患者は高コレステロール血症を伴うことが多く、治療上も低脂肪、低蛋白食で病状が改善することがあります。反面、ストレス、感染、薬剤などで悪化することからも発病要因は錯綜しています。

この病気は以前から欧米人に多発しており、アメリカでは人口の2%をおかす厄介な皮膚病となっています。ところが、近年わが国においても、患者数の著しい増加が指摘されています。この増加傾向の一因に、日本人

(白い雲母状の鱗屑のこいた
隆起性紅斑)

尋常性乾癬

後ますます増えることが予想される皮膚病として注意する必要がありましょう。

欠々治療法

治療法は原因が分らないため対症療法しかありません。従つて、発疹がよくなつても一時的で再発を繰り返し、完全に治することは極めて難しい疾患です。

ここでは 中心的に用いられた
ているステロイド軟膏療法と、
併用療法として最近わが国でも
普及してきたブバ療法について
説明し、最後にサナモア光線療
法について考えてみました。

イド軟膏の外用が使われていま
す。 まずステロイド軟膏の使用法
ですが、例えばアトピー性皮膚
炎などでは日に数回軽くすり込
む単純塗布が用いられ、それだ
けで効きますが、尋常性乾癬の
場合には、この方法では効かな
い例も多く、その際には塗布後
に油紙やサランラップでくるむ
密封包帯法と言う方法を用いま

が、既に50年も前に使われていました。その治療法が最近になって見直された理由は、ステロイド軟膏外用の効果の限界が分ったからです。ただタール塗布は美容的な面から外来治療に適さないこともあって、現在は主に前述のプロペラ療法が用いられています。

尋常性乾癬の主な治療法とサンモア光線療法について述べましたが、いずれを選ぶとしても一生続ける必要があります。この観点からも、サンモアのように長い間続けても害のない方法を併用して、皮疹の改善を図ることは、症状を管理する上で必ず役立つ筈です。

また、本症以外の皮膚疾患で、何年間も治療、寛解、中斷、再

医学博士 宇都宮 光明

尋常性乾癬の光線療法

光明 法
部へ照射する治療法です。この治療法の原型は、タールの局所塗布と紫外線照射を組み合せたゲッカーマン療法と呼ばれた治療法です。

サナモアを活用
して下さい

尋常性乾癬は青壯年期に発病し、経過中に病勢の消長はあっても、いったん発病すると殆んど生涯にわたって治療を必要とする難治な点では代表的な皮膚病です。

この病気の発疹は非常に特徴があります。即ち、まわりの皮膚との境界がはつきりしていて、平に赤く盛り上り（紅斑）、表面には厚い銀白色のウロコのようなもの（鱗屑）リソリンセツ）をつけ、病名の通りに決してただれたり水疱を作ることなく常に乾燥しています。発疹は頭部から始まることが多い、後に他の部にも大小の発疹を生じ互に融合します。主な好発部位は、関節部、背部、臀部などですが、関節部では肘頭（ひじ）、ひざ頭のように伸展側に両側性に出現します。発疹の数は数個から数百個まで様々で、ひどくなると身体中に発疹を認めるようになります。爪も侵されます。

(III) ブラックライトによる
紫外線療法

現在、ナモア光線療法併用で、
は、サナモア光線療法を経て
の3例の尋常性乾癬の患者の経
過を追跡しています。これまで
の成績では、全例で発疹の面積
は縮少し、ステロイド軟膏の使
用量は減り、症状の管理上は有
効ですが、完治はしていません。
ところで、サナモア光線療法
の基本的な考え方は、健康法を
兼ねた家庭療法として、副作用

尋常性乾癬は青壯年期に発病し、経過中に病勢の消長はあるが、いつたん発病すると殆んど生涯にわたって治療を必要とする難治な点では代表的な皮膚病です。

つたりするのが欠点です。（一
面参照）

(III) サナモア光線療法

に前述のフハ療法が用いられて
います。

フハ療法には確実な治療効果
があり、殆んどの患者で3ヶ月
以内に発疹を消失させますし、ス
テロイド療法に比べて、再発ま
での期間も延ばしますが、やは
り根治は難しく、治療を中止す

また、本症以外の皮膚疾患で、何年間も治療、寛解、中断、再発を繰り返している人もいます。薬物療法と根本的に異なる発想の治療法として、サナモア光線療法を試して下さい。

この病気の正しい病名は咽頭結膜熱といい、のどが赤くなつて痛む咽頭炎、眼が充血して眼やにが出る結膜炎、発熱を主症状とする疾患です。病原はアデノウイルスで、感染経路は眼、咽頭、糞便から排泄されたウイルスが、主に眼と気道を経て感染することから、ブールはウイルスの伝播に最も好都合な環境となり易く、主にブールで移されるために、ブール熱ともいわれます。

今年もブール開きの便りを聞き、カッパ達がブールに集まる季節になりました。水泳は全身運動になり、子供の成長にも格好のスポーツですが、このブルを介してとりわけ学齢期の児童の間で局地的な大流行を見る夏カゼの一つに、俗にブール熱といわれる病気があります。



プール熱（咽頭結膜熱）

ところでアデノウイルス感染症は、年令と発病との間に特有の関係があつて、学齢期の児童の発病率が有意に高く、成人の罹患率は著しく低いのが特徴です。即ち、これまでの追跡調査の結果は、学齢期の子供では四～五人に一人の割合で発病するのに、成人では百人に一～二人が発病するに過ぎません。

フレル熱の診断は、フレル開きの後に学童を中心に夏カゼが多く発した事実に気付けば比較的容易です。ただ注意すべき点は発熱に比べると結膜炎や咽頭炎の頻度は低く、典型的な三徴候のそろわない症例が全体の $\frac{1}{2}$ から $\frac{2}{3}$ 程度あることです。

本症の自然経過の予後は良好

本症の自然経過の予後は良好で、合併症のない限り発病後一週間ないし十日以内に完治しますが、根本的な治療法は他のウイルス疾患同様ありませんので治療は対症療法に限られることから、予防に重点をおく必要がありま

まず、ブールの水質管理で予防可能でしょうか。これについては厚生省からブールの水質基準強化に関する通達が出ていて、塩素消毒を義務づけています。

これは、細菌性疾患では有効ですが、ことアデノウイルスにつ

「夏カゼは犬もくわない」と
言います。どんな病気でも共通
ですが、予防のための丈夫な身
体作りはサナモカの独壇場で
す。

本的な予防法は、夏カゼが避け難くて通るような丈夫な身体作りしかありません。サナモアをよりよい健康のために利用する際には、AカーボンとBカーボンを組合せて、腹、腰、膝、足裏に各5～10分間の照射を続けて下さい。

段はとれないこともあって難しいようです。また、患者は治った後も病原ウイルスを排泄しますので、少なくとも二週間はブーリに入れない注意が必要です。

未だブーリ熱には予防ワクチンはうけませんので、唯一の良

いては効果はありません。端的に言えば、生体に無害な方法で、プール熱を防ぐことは不可能です。従つて消極的になりますが、発病を防ぐ上で有益な手立てでは頻繁にプールの水を入れ替えるぐらいしかありません。それでも患者が出た時には、病気の蔓延を防ぐためにプール閉鎖が理

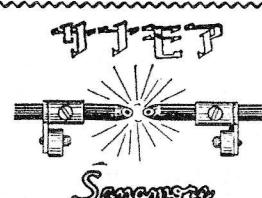
協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒150 東京都目黒区目黒4-6-18
サナモア光線協会 TEL(03)793-5281
七一二一五三二二

医学博士 宇都宮 光明

光線療法が人々の健康に寄与し得ることを疑いないにも拘らず、現状の医療体系は薬物手術に偏り、光線の効果についての一般的な認識はないがあくまで十分と言わざるを得ません。このため人々の健康を願うと共に光線療法について啓蒙・普及活動を行う目的で、サンマニア中央診療所内にサンマニア光線協会を設立しました。

サンマニア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、会員相互の懇親・体験発表・意見交換を通して、光線療法についての理解を深めるため「健康と光線」を季刊にて発行します。



丁巳年光緯協會